

プラスチック環境配慮の取り組み

現代社会を支える有用な素材として多くの場面で活用されてきたプラスチックですが、近年は過剰な使用や不適切な廃棄により、海洋プラスチック問題などの環境問題につながる事例が指摘されています。また、製造から処分にかけてのライフサイクルの中で多くのCO₂が排出されることも課題となっています。バンダイナムコグループでは、マテリアリティに掲げる「地球環境との共生」において、「資源・原材料の持続可能な利用」を重要項目の1つと位置付けており、これまでもグループ各社で、天然資源をはじめとした原材料の使用削減や効率的な利用、廃棄物の発生抑制・削減に取り組んできました。これらの取り組みをさらに推進し、より具体化するものとして、バンダイナムコグループでは、2025年4月に「バンダイナムコグループプラスチック環境配慮方針」を策定。本方針のもと、これまで以上にプラスチックの削減とリサイクルに注力していきます。

バンダイナムコグループ プラスチック環境配慮方針

バンダイナムコグループは、プラスチックが持つ有用性を活かし、より多くのエンターテインメントを生み出し続けていくため、持続可能なプラスチック利用に取り組んでいきます。

プラスチックが使い捨てられることで地球環境に大きな影響を及ぼしていることを重要な社会課題と考え、再生プラスチックや代替素材の活用、および資源循環型社会の実現を目指し、企業として責任ある行動に努めます。

制定年月日 2025年4月1日

主な活動の実績と予定(2025年9月時点)

| | バンダイナムコホールディングス | 国内外グループ各事業各社 |
|----------|--|--|
| 2025年3月期 | ・主要事業会社におけるプラスチック利用量調査 | |
| 2026年3月期 | ・「バンダイナムコグループプラスチック環境配慮方針」の制定および公開 ・事業統括会社およびトイホビー事業におけるプラスチック利用量調査 | ・石油由来プラスチックの利用量削減の取り組み推進 - 代替素材の活用 - 再生プラスチックの積極的利用 - 景品袋の使用量削減 |
| 2027年3月期 | ・外部パートナーと連携し、プラスチックリサイクル拡大に向けた施策検討 | ・製品リサイクルの推進 |

石油由来プラスチックの利用量削減の取り組み

石油由来プラスチックの利用量を削減し、CO₂排出量を削減するため、グループ一丸となって取り組みを進めています。

適切に管理された森林から伐採された竹素材でつくられたクラフトパズルや、産業廃棄物として排出される卵の殻や、緑茶飲料の製造工程で排出される茶殻、木くずなどを活用したガンブラを開発しています。また、本体を構成する素材やパッケージに使用している紙もリサイクル素材からつくられている「ルービックキューブエコ」、日本国内で排出される様々な廃棄物(噴石、カキ殻、卵殻、ホタテ殻)を粉砕・再生したアップサイクルプラスチックを素材に採用したメタシル(筆記具)「Re:metacil(リ:メタシル)」など、バンダイナムコグループ各社がリサイクル素材やプラスチック代替素材を導入しています。



ケミカルリサイクルプラスチックを使用したプラモデル



環境に配慮し適切に管理された森林から伐採された竹素材でつくられたクラフトパズル

廃材からつくられたメタシル

循環型社会構築に向けた取り組み

バンダイナムコグループでは、2006年から「ガシャポン」のカプセルの回収・リサイクルを実施しています。2021年には、取り組みをさらに拡大すべく、(株)バンダイ、(株)バンダイナムコエンターテインメントおよび(株)バンダイロジパル3社合同での「ガシャポンカプセルリサイクル」を開始しました。

回収した空カプセルは、カプセルの原料となる「ペレット」(リサイクルペレット)の状態に戻され、通常の「ペレット(バージンペレット)」との混合、成型を経て、再びカプセルとして生まれ変わります。現在リサイクルペレットは約40%の割合で配合されています。また、「ガシャポンのデパート」「ガシャポンバンダイオフィシャルショップ」では、空カプセル回収ボックス「ガシャポイントステーション」を施設内に設置し、お客様に楽しんでいただきながら空カプセルを回収できるよう工夫しています。

カプセル回収量 (単位:トン)

